

非正規雇用労働者等のための働きながら学びやすい 職業訓練試行事業に関する調査・分析

【 調査研究概要 】

分野：訓練技法・評価等の開発

担当室名：在職者訓練開発室

1. はじめに

急速な技術革新と産業構造の変化が進む現在、労働者が学び直しを通じて主体的にキャリアを形成できる環境の整備は、我が国の持続的発展を支える重要な基盤である。しかし、従来の公的職業訓練は、求職者（離職者）を主たる対象としており、平日昼間の施設通所を前提とした設計がなされてきた。このため、フルタイムで働く在職者や、不規則なシフト制の勤務形態に従事する非正規雇用労働者、さらに家事育児や介護など家庭を担う受講者にとって、訓練受講は様々な制約から実質的に困難な状況にあった。こうした課題に対し、厚生労働省は令和5年に「公的職業訓練の在り方に関する研究会」を開催し、非正規雇用労働者等が働きながらでも学びやすい職業訓練の具体的な制度設計に着手した。これを受け、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構は、実施主体を民間の職業訓練事業者に委託する形で、令和6年に「非正規雇用労働者等が働きながら学びやすい職業訓練試行事業」（以下「試行訓練」という。）を実施した。また、試行訓練に伴う調査、データ収集および詳細な分析については、基盤整備センターが職業能力開発総合大学校に設置した「非正規雇用労働者のための職業訓練試行事業に関する研究会」において実施することとした。本報告書では、試行訓練を通じて得られたデータを整理・分析し、その上で、訓練効果の検証をとおして得られた知見のもと、在職者のニーズに合致した訓練分野の方向性、効果的な訓練の実施方法、および訓練実施機関に求められる支援体制等について報告する。

2. 働きながら学びやすい3つの要件

試行訓練における応募率や受講継続の状況から、在職者の学習を成立・継続させる要素は以下の3点に集約される。

2-1 時間的・場所的制約への配慮

実施形態別の応募倍率について、eラーニングのみの訓練は179.3%であったが、スクーリング訓練とeラーニング訓練を組み合わせたコースでは29.4%と極めて低調であった（表1）。非正規雇用労働者の多くは、シフト制など不規則な勤務形態に従事している場合が多い。そのため、特定の時間・場所への通所を前提とした訓練形態は、受講検討段階において大きな制約要因となる。ただし、表1が示す通り、充足率そのものは低いものの、スクーリング訓練の修了率は66.7%と他と比較して高い数値を示している点には留意が必要である。これは、対面でのコミュニケーションが孤独感を解消し、学習意欲を維持させるなど効果がある可能性がある。したがって、eラーニングやオンライン訓練など通所を伴わない方法を原則とし、訓練分野の特性や地域の実情、受講者層の特性に応じ、対面での実習を柔軟に組み合わせることが望ましい。

表1. 試行訓練の実施状況と応募実績

実施方法	定員	申込件数	入校者	修了者
①eラーニングのみ訓練	400	717 (179.3%)	355 (88.8%)	222 (62.5%)
②オンライン訓練併用型	160	214 (133.8%)	142 (88.8%)	84 (59.2%)
③スクーリング訓練併用型	160	47 (29.4%)	57 (35.6%)	38 (66.7%)
合計	720	978 (135.8%)	554 (76.9%)	344 (62.1%)

※スクーリング訓練併用型は第2、3希望による入校があったことから入校者が申込件数を上回っている。

2-2 伴走支援による学習継続性の担保

働きながら学ぶ受講者は、日々の仕事による疲労に加え、学習時間の捻出に伴う負担、さらに独習による不安や孤立感を抱えやすい。特に自宅で完結するオンライン環境の訓練形態では、講師や受講生同士の接点が希薄になりがちであり、これが学習意欲の減退や離脱を招く懸念がある。試行訓練では、この

課題に対しメンターによる伴走支援と、キャリアコンサルタントによる面談を実施した。試行訓練では、キャリアコンサルティングの利用回数と修了率の間には正の相関が見られた。

2-3 受講前マッチングの最適化

試行訓練において、eラーニング訓練の受講進捗が20%未満だった方が全体の約2割存在した。この事実は、受講前の段階で、訓練内容と受講者のニーズ・目標との適合性が十分に確認されていなかった可能性を示唆している。そのため、訓練内容の体験受講や、現実的な学習時間の確保が可能であるかなど、受講前オリエンテーションの実施が、離脱防止に望ましい。

表2.eラーニング訓練の進捗度別受講割合

受講割合	入校者	受講修了者	eラーニング受講割合				
			未修了者				
			80%以上	80% ～ 60%	60% ～ 40%	40% ～ 20%	20%未満
①eラーニングのみ訓練	355	222	9	15	17	22	70
②オンライン訓練併用型	142	96	5	2	11	6	22
③スクーリング訓練併用型	57	41	0	3	3	0	10
合計	554	359	14	20	31	28	102

3. 成果指標と検証

試行訓練は在職者を主な対象とし、現職でのキャリアアップや待遇改善を目指すという特性を持つ。そのため、従来の離職者向け訓練で重視されてきた「就職率」のみでは、その訓練効果を適切に測ることができない。客観的な指標の多角化に加え、受講者の内面的な変化を捉える主観的評価の導入が必要である。試行訓練に対して設定された成果指標は表3のとおり。

3-1 短期的調査の限界

修了2ヶ月後の正規雇用転換率(2.7%)や賃金上昇率(11.9%)、就職率(2.7%)という数値は、一見すると低調である。しかし、在職者は既に就業状態にあるため、訓練直後に離職・転職を選択するケースは稀であり、企業の昇給サイクル等も影響する。このため、短期間の指標のみでの評価は不十分であり、中長期的な追跡が求められる。

3-2 自己効力感と定性的成果(満足度)

一方で、受講者の主観的評価は極めて高く、学習の「継続性」と「有効性」を裏付けている。アンケートによれば、72.3%が訓練内容を「仕事に活用できそう」と回答し、93.1%が「受講してよかった」、81.8%が「働きながらも学びやすかった」と回答している。これらの指標は、訓練が受講者のキャリア意識の向上と自己効力感の向上に大きく貢献したことを示唆するものである。

表3. 成果指標と結果

(1) 修了率	62.1%(554名中344名修了)	
(2) 就職率	2.7%(7名が異なる職場に正規雇用)	
(3) 正規雇用労働者への転換割合	2.7%(7名が正規雇用転換)	
(4) 賃金水準の向上割合	11.9%(31名が賃金向上)	
(5) 訓練内容等の活用割合	目指す職場に関連	80.0%
	能力が上がった	80.8%
	仕事に活用できそう(できた)	72.3%
(6) 訓練修了者の主観的評価	キャリアが明確になった	63.5%
	仕事の幅が広がった	65.8%
	受講してよかった	93.1%
	働きながらも学びやすかった	81.8%
	他の人にも勧めたい	80.7%
	期待していた内容であった	84.0%

※修了2か月後アンケート回答者260名で算出
就職率においては就職により退所した1名を含む

4. まとめ

本試行訓練は、「働きながら学びやすい訓練」を実現するため、時間的柔軟性の確保と学習継続性の確保等が不可欠であることを明らかにした。これらの知見は、非正規雇用労働者に限らず、中小企業の正規雇用労働者やフリーランス、復職を目指す者など様々な方にも展開が可能であろう。同時に、試行訓練の結果は、短期的な就職成果指標だけではなく、受講者のキャリア意識の変化、スキルの業務活用状況、主観的満足度といった多角的な評価指標を見る必要がある。

急速な技術革新と産業構造の変化が進む中、すべての労働者が必要な時に学び直し、自らのキャリアを主体的に形成できる社会の実現は、職業訓練の新しい役割である。試行訓練に参加した受講者から得られた前向きな感想は、主観的な満足度であったとしても、今後は、試行訓練から得られた知見を踏まえ、多くの労働者の「働きながら学べる環境」の実現に向けた具体的な展開が期待される。